

# 平成31年1定 予算特別委員会(総合政策部所管)開催状況

開催年月日 平成31年2月28日

質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員

担当部課 総合政策部政策局総合教育推進室

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>二 北海道総合教育大綱について</b></p> <p><b>(一) SDGsを踏まえた総合教育大綱の見直しについて</b></p> <p>総合政策部では、SDGs推進に当たり、各部に対し、SDGsの考え方を踏まえて、計画の見直しや策定を促していると承知していますが、それでは、こちらで所管している北海道総合教育大綱については、どのように見直しを行う考えか伺います。</p> <p><b>(一) 一再 SDGsを踏まえた総合教育大綱の見直しについて</b></p> <p>本道の未来を担う人づくりとは、正に持続可能な開発を担う人材をつくることであり、SDGs推進の理念に基づき取組を進めていくことが必要であると考えます。</p> <p>しかしながら、北海道総合教育大綱には、SDGsを具体的に推進するエンジンともいえるESD、持続可能な開発教育や北海道の強みである自然環境教育について全く言及がありません。こうした考えを教育政策の推進の核と位置付けるべきと考えますが、所見を伺います。</p>	<p><b>〔篠原総合教育推進室長〕</b></p> <p>北海道総合教育大綱についてであります。今年度スタートした総合教育大綱は、本道における教育行政の根本となるものであり、本道の持続的な発展を念頭に、「その先の道を切り拓く北海道人」を地域で大切に育むことを基本理念に掲げ、予測困難で変化が激しく、多様性が高まる社会において、自立して生き抜く力や共に支え合う心を育むこと、子どもの学びの環境を整えること、社会で活躍し続けられる人を育むことなどを、基本方針として定めているところでございます。</p> <p>こうした基本方針は、「世界の中で輝きつづける北海道」という、「北海道SDGs推進ビジョン」のめざす姿の実現に資するものと考えているところでありまして、道といたしましては、引き続き、大綱に示した基本方針に基づき、関係機関等と連携しながら、本道の未来を担う人づくりを進めてまいりたいと考えてございます。</p> <p><b>〔篠原総合教育推進室長〕</b></p> <p>ESDについてでございますが、ESDは、環境や国際理解など様々な分野を「持続可能な社会の構築」という観点からつなげ、総合的に取り組むものであり、平成29年に示された新しい学習指導要領におきましても、「持続可能な社会の創り手の育成」という理念が明確に位置付けられるなど、大変重要な取組であると承知をしております。</p> <p>総合教育大綱は、地域の豊かな自然や歴史等の理解を深める教育や、社会で自立して生き抜く力や共に支え合う心の育成などを基本方針として定めたものであり、ESDの理念にも通じるものと考えているところでございます。</p> <p>道といたしましては、引き続き、ふるさと北海道を次の世代にしっかりと引き継いでいくため、総合教育大綱の下、関係機関等と連携をしながら、本道の未来を担う人づくりを進めてまいりたいと考えてございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>(二) 子どもの外遊び環境の保障について</b></p> <p>私自身の今期の重点テーマでもございまして、何度か議論をさせていただいたわけですが、子どもたちが、地域に愛着をもって育つよう、皆さん繰り返し愛着、愛着と結構言ってらっしゃいますけれども、子どもたちが地域に愛着を持って育つよう積極的に外遊びや農業体験、農家民泊を進める取組が道内で進んでおります。他県においては、長野などを始めとして、そうした自然体験活動を行う幼稚園等に対し、県が支援を行うなどして、子どもたちの外遊び環境の保障を積極的に進めているところです。ところが、道においては、北海道総合教育大綱の中に「子どもの学びの環境」については記載がありますが、「遊び環境の保障」には全く記載がありません。道では、子どもの外遊び環境について、どのように考え、どのように進めていくつもりか伺います。</p>	<p><b>【小野塚総合政策部長】</b></p> <p>子どもたちの外遊びについてでございますが、子どもたちにとって、豊かな自然を活かした体験活動は、好奇心、表現力などを育む有意義なものであり、幼児教育における大切な取組の一つであると認識しております。</p> <p>道では、これまで、道教委との庁内連携チームにおいて、森や自然を活用した教育のあり方について検討を進めてきておりまして、保育者を対象とした各種研修事業や指導主事の幼稚園訪問等において、自然の中で遊ぶ活動の充実などについて指導助言を行うほか、農業高校の生徒が行う幼稚園児を対象とした木育教室や、保育士を対象とした木育研修などに支援を行ってきたところでございます。</p> <p>今後も、こうした取組の推進に加え、子どもたちが自然に触れあう体験の意義について、関係者の理解をより一層深めていくため、地域における実践事例の積極的な発信に努めるなど、道教委等、関係部局と連携しながら、子どもたちの体験活動の充実に向け、取組を進めていく考えでございます。</p>
<p><b>(二) 一 再 子どもの外遊び環境の保障について</b></p> <p>ありがとうございます。庁内連携チームでの検討、また、地道な地域での取組ということも、答弁いただきました。ただ、敢えて重ねて伺わせていただきますが、長野県、広島県、鳥取県では、子どもたちの外遊び環境ということを移住促進の大きな柱として首都圏などをターゲットに、しっかり県として、県全体としてアピールをして、移住促進の成果をあげているわけです。悔しくありませんか。北海道がこれ、一番先にスタートするべき話ですよ。世界に輝き続ける北海道というふうに、ビジョンに掲げられてますけれども、例えばスウェーデンなどのアウトドア教育では、アラブ首長国連邦だとかシンガポールだとか、そういったところから森と自然の外遊び環境をどういうふうに学齢前から起業家教育という、そこに、地域づくりに活かしていくかという、そのところにたくさん学びに行っている人がいる。</p> <p>今、北海道の森のようちえんだとか、そういう自然保育をやっているところにも、中国などからどんどん学びに来ているのですよ。これを、道として、各部でそれぞれ、庁内の中で地道に、道庁の皆さんは地道にそういうことやられていると思うのですが、総合政策部として、道の広域自治体としてできることは、そういうことをしっかり外に向けてどうアピールするか、戦略的にアピールするか。それができないと総合政策部である意味がないとまで言わせていただきますけれども、そういう意味で、更にこの取組の強化が重要だと思います。外遊び環境の保障ということを戦略的に進めることが重要だと考えますが、再度、見解を伺います。</p>	<p><b>【小野塚総合政策部長】</b></p> <p>子どもたちの外遊びについてでございますが、子どもたちにとって、豊かな自然を活かした体験活動は、幼児教育における大切な取組の一つであると認識しておりまして、道では、道教委との庁内連携チームにおいて、その推進について、関係課と検討を進めているところでございます。</p> <p>地域において、子どもたちが自然と触れあい、健やかに成長できる環境づくりを進めていくことは、地域の暮らしの場としての魅力の向上にもつながると考えておりまして、道としては、今後とも、保育者への各種研修事業における指導助言や地域における実践事例の発信などに努めますとともに、他県の取組事例などの情報を収集・活用するなどいたしまして、更なる取組の推進につなげてまいる考えでございます。</p>